

# おぼろげにらいてうの会ニュース

## らいてうの「協同」への思いをつなぐ

### 第13回総会にあたって

らいてうの会会長・米田佐代子

◇ オープン7年目を迎えて

2012年、らいてうの家はオープン7年目に入ります。「いつまで続けられるだろうか」となやみながらも、春の気配とともに「雪の中で無事だったかしら?」とそわそわしてしまいます。今年4月28日に真田町のみなさんのコーラスで幕開けの予定。どうぞ楽しみにしておいでください。

◇ 地道に「学び」を中心に

昨年は「青鞥」創刊百周年が、新聞・雑誌・ラジオなどでとりあげられ、「青鞥」やらいてうについての関心が高まった年でした。その成果を生かしたいと思います。今年は大きなイベントではなく、地道にじっくり勉強しましょう。らいてうの家を中心とした上田地域でも、日頃忙しい東京地域でも、小さな学習会や講座を積み重ねていきたいと考えています。

◇ 「協同の精神」の輝きを

今年の中心テーマとして、「協同」を取り上げたいと思います。あの大震災と原発事故から一年、壊された暮らしや地域は復興どころか、みんなそろって暮らせる目当てもたない家族がたくさん



「我等の家」全景  
らいてうの子どもたちも店番をするなど、家族ぐるみで活動をした。  
〔婦人之友〕1930年9月号より)

あります。そんなとき、私たちはらいてうが呼びかけた「女性が主人公になる協同自治社会」を思い起こさずにはいられません。

らいてうは、1923年の関東大震災に出会い、幼い子らとともに道端で一夜を明かしました。戦後も小さな地震にあわて、いつも物静かな人がはだして縁側から飛び降りたそうです。それほど恐ろしい記憶でしたが、やがてらいてうは「言いようもない痛み」のなかから輝き始めた被災者救援の「協同一致の精神」に希望を見出し、それが彼女の「相互扶助」にもとづく消費組合「我等の家」の設立につながりました。いつも「こういう暮らしにかかわる仕事には女性が先頭に立って参加することが大事」といい、自ら組合長を引き受けて活動したのです。

◇ 今年は国際協同組合年

今年が国連が定めた国際協同組合年です。日本でも農協や生協などの団体と個人による「201

2年・国際協同組合年全国実行委員会」が発足、「協同組合が地方・地域の活性化、失業・非正規雇用問題の解決、環境保全や福祉の向上、自給率向上や食の安全の確保」などに大きな力を発揮することを掲げています。原発やTPP問題を含め、大いにがんばっていただきたいものです。

そのためにも、2009年の国連総会宣言で、「女性、若者、高齢者、障害者および先住民を含むあらゆる人々」が「自由意思に基づいて協同組合に存分に参加」する必要性を明記していることは重要です。来年は関東大震災から100年ですが、100年も昔にらいてうがぶつかり、考えたことは、今の時代の先取りだったのです。

◇ りいてうの思いを届けよう

その「協同」への思いを持って、すべての被災地のみなさんとはもとより、国内外を問わず助けの手が届かない人びとへの連帯を築いていきたい、と思います。ぜひ総会へ向けにご意見をお寄せくださるようお願いいたします。

また、今年の日本母親大会（新潟）には、らいてうの会も「協同」をテーマに特別企画で参加します（3面参照）。ぜひご参加ください。

## 第13回通常総会の「ご案内」

日時 2012年4月21日（土） 13:30～

会場 東京・全労連会館 3階会議室

審議事項 ①11年度事業報告と決算報告

②12年度事業計画と予算

③役員選出

らいてう講座

梯久美子さんが語る

戦争と女たち―過去からの声を聴く―



愛と平和のド  
キュメント作  
家、梯(かけはし)  
久美子さんをお  
招きして2月18  
日、東京で表記  
テーマでの「ら  
いてう講座」が

開かれまして。梯さんは1961年生まれ、「戦争を知らない世代」です。女性目線で、ていねいな戦争体験の聞き取りをしながら、戦争とは、平和とは、を問い続けている作家です。2006年には、「散るぞ悲しき―硫黄島総指揮官・栗林忠道―」で、第37回大宅壮一ノンフィクション賞を受賞されました。

「昨年が『青鞥』百年ということとは、存じあげていません。百年たった今、らいてうさんがおっしゃったことが私たちが世の中が本当に分かっているのだろうか、戦争の教訓も本当に分かっていたのだろうか、ということを感じます。昨年の震災が起きた時、昭和二十年―子どもたちが見た日本―という本の取材をしていました。そのとき思ったのは、今、子どもである人たちが50年後にどういうふうはこの震災を問いかけるだろうか、ということでした。私も含め、戦後世代の人たち

が、日本人、大人たちはなぜあんな無謀な戦争を止められなかったのだろうか」と問われると同じように、「あのとき、大人たちはどうして原発を止められなかったのだろうか」と問われたとき、何と答えることができるのか。今、私たちは意識した行動をとらなければいけないと思います」と前置きして、「戦争と女性たち」のテーマに入りました。

梯さんは沖縄や広島、原爆については、怖くて避けていたそうです。ところが石内都さんの写真集「広島」にふれて衝撃を受けました。その写真は、焼け焦げた水玉やチェック、花柄のブラウスやスカートが鮮やかなカラーで、何の解説もなく写されていました。それらの服は広島平和記念資料室に保管されていた被爆者の遺品のほんの一部なのでした。

「妻でもなく母でもない、独身の女性たち、おしゃれが許されなかった時代に、おそらくモンペの下に着ていたに違いない服を見て、あの戦争は女たちにとってなんだったのか」と戦時下、女性たちはどんな思いで日々を過ごしていたのか、戦中戦後を生きぬいた女性たちを取材して「女たちの戦争」という本にしました。

「茨木のり子さんの詩に『私が一番きれいだったとき』という作品があります。女性たちが一番きれいだったとき、男たちはみんな戦場についてしまった。私たちが一番きれいだったとき、おしゃれもできなかつた。好きな人と恋もできなかつた。いやな時代だったのよ、と取材に応じてくださったみなさんはそういって、ふたたびあんな時代が来ないように願っていました」と。

梯さんはそのためにも、戦争体験を風化させてはならない、戦争を知らない世代に戦争の愚かさ伝えていきたい、と結ばれました。

らいてうの「平和のころざし」を受け継ぐ若手の女性梯さんに、心からの拍手をおくった講座でした。(木村康子)

### 文京区「青鞥」創刊百周年記念の催し

昨年12月18日、らいてうの会も協力して、東京・文京区企画の「青鞥」から現代へ 私たちが引き継ぐもの」の講演会と展示が行われました。

第1部は、「無名の祖母から引き継いだこと」と題し、法政大学の田中優子さんが講演。優子さんの祖母は、栃木県の造り酒屋に生まれ、生家の没落によって苦労されるが、1911年「青鞥」創刊の次年に横浜へ出られ、自分の力で生活を切り開き、優子さんを母親のように育ててくださったとのこと。そして、後年、優子さんのお母さんに「青鞥」創刊の衝撃が忘れられなかった、と話されたという。らいてうさんとは生涯会うことはなかったが、らいてうさんは祖母の生き方の指針になった人だと思ふ、と語られた。また、らいてうの母性保護の考え方にも今汲み取るべきものがあるのではないかと提起もされました。

第2部は、「家」館長の米田佐代子さんをコーディネーターに「素顔の祖母を語る」と、らいてう令孫奥村直史さん、富本一枝令孫海藤降吉さんかららいてうさんと一枝さんの深い交流の日々などが語られました。展示にも多様な方々の来場があり、「青鞥」百周年にふさわしい催しとなりました。

「平塚らいてう孫が語る素顔」著者  
**奥村直史さんを囲む会に参加**

表題の本を一気に読み、新しい「らいてう」の実像に感動していたので囲む会の開催を知り、1月28日に参加させていただいた。米田佐代子、羽田澄子、折井美耶子さんなど、10数人で奥村直史、洋ご夫妻を囲んで、知らなかった「らいてう」に関わる逸話をたくさんお聞きすることができた。

直史さんが、映画「平塚らいてうの生涯」のなかで、静寂な湖水の描写が祖母の姿と重なったといわれた。らいてうは私生活では孤独と静寂の中で内省の世界に浸ることを必要とし、話すことの苦手なたいへん非社交的な人であり、一方で止むに止まれず内なるエネルギー、思いを文章で大胆に表現し「女性解放」「反戦平和」のリーダーとして乞われ、運動を組織し大きな足跡を残された。その極端な落差を埋めるために心理学が専門の直史さんはご本人のたいへんな努力があったと述べられた。

らいてうを包容し、支えたご両親はもちろん、戦後「神様のような主婦」として、らいてう、博史ご夫妻含め、7人の家族のため家事のすべてを担ったご子息敦史夫人、綾子さんの存在の大きさを知った。その綾子さんが、夫婦が家事労働を分担、共に職業人として働いたご子息・直史さんの妻洋さんの退職祝いに花束を持参し、「らいてうはあなたたちのような夫婦の在り方を望んだのよ

ね」と言われたことを洋さんが話された。人に恵まれ「らいてう」の自己とたたかいたいながら視野を広げ、前進し続けた人生を再認識できた。

上田らいてうの会 富松 裕子



「らいてうさんはどこでしょう」  
 —秘蔵写真を「家」で特集展示

富士見幼稚園時代のらいてうさん—明治23年頃

2012年度らいてうの家の新展示は、奥村家提供のセピア色の写真や遺品から「誰も知らないらいてうさん」の写真特集です。「富士見幼稚園時代の明ちゃん」や「博史さんがもらってきたとらねこのココを抱くらいてう」など、微笑ましい写真がいっぱい。思いがけないらいてうさんに会えます。ほかに「青鞥」の表紙絵のすべてをコンパクトにまとめたパネルも用意しました。見に来て下さいね!

らいてう忌2012年  
 南房総・館山など日帰りの旅

日時 5月19日(土)  
 参加費 8,800円

今回はらいてうゆかりの地、館山北條海岸、赤山地下壕見学、かにた婦人の村などを訪ねます。  
 ●申し込みは平塚らいてうの会まで。

日本母親大会(新潟)は  
 栄村元村長・高橋さんと米田会長のコラボ

今年も母親大会参加を決めたらいてうの会では、「震災1周年」と「国際協同組合年」にちなみ、関東大震災を経験したらいてうの「協同」へのねがいとは、をテーマに8月25日の特別企画を開催。昨年大震災の「もう一つの被災地」長野県栄村から元村長さんをお招きし、米田会長との「フシギなコラボレーション」をお楽しみに。みんなで新潟へ!

「婦人通信」連載が「らいてうに出会う旅」冊子に

米田佐代子さんが「婦人通信」に4年間連載した「らいてうさん こんにちは」が完結。らいてうの家オープン以来「まだ知らないらいてうに出会いたい」と書き続けた力作を、ご本人が自費出版する運びとなりました。「番外編」や毎日新聞・日中友好新聞などに載ったエッセイも加え、写真も収録、きれいな冊子になるといいます。乞うご期待!



竹岡教会 1900年設立、112年を経た小さな木造の伝道所、右隣に牧師館があったけれど、古くなり20年余り前に取り壊された。その牧師館でらいてうたちは1921年の夏を過ごした。

らいてうと房総  
御宿―竹岡―館山・北條―

らいてうは山を好んでいましたが海岸も好きで、とくに房総は縁が深い場所でした。

1914年、らいてうは博史と共同生活をはじめ、ほかの社員たちもそれぞれ結婚や新しい生活を開始する中で、『青鞥』の雑務がらいてう一人に襲い掛かり体調を崩してしまい、10月博史と二人で上総・御宿へ静養に出かけたのでした。御宿はかつて博史が原田潤と滞在したことがある場所でした。このの広々とした浜辺や、波のように豊かな曲線を描いている砂丘、波打ち際を歩く千鳥のかわいらしさなどに惹かれて、翌年の正月まで滞在しました。ここを舞台に、らいてうから野枝への「青鞥の譲渡劇」が行われたのでした。

つぎにらいてうが房総を訪れるのは、新婦人協会の運動の最中、1921年夏のことです。やはり激しい運動によって頭痛や吐き気におそわれたらいてうは、夏休みの子どもたちを連れて竹岡海

岸に滞在しました。教会の佐々木伊都子の夫が牧師で、この竹岡教会で子どものためのサマースクールを開くということで、その牧師館を借りひと夏過ごしました。当時竹岡は上総港の駅から海沿いの道を一里も歩く静かなところでした。

つぎは館山・北條海岸です。ここは、らいてうの父定二郎が会計検査院を退職したのち、老後の隠棲の地として移り住んだところで、父の妹夫婦も住んでいました。1924年、成城小学校に入った敦史が肺門リンパ腺炎を患い、学校を休学してしばらくこの家で静養していました。

このように当時の房総は、美しい海辺、澄んだ空気、東京人にとっては「静養の地」だったのです。私も子どものころ（戦前です）夏休みになると父の関係でサマーハウスのある保田海岸によく行ったことを思い出しました。

今年の「らいてう忌」は、房総の旅です。竹岡の旧い教会を訪ねたいと思いましたが、残念ながらこの3月で取り壊され新しい教会が建つとのことで、8月には献堂式があるそうです。館山には新婦人協会が活躍した「矢部（鳥野）初子」が創設した百合学園があります。これに協力した娘の潮はすでに亡くなり、夫の高橋銆十郎氏がお話をしてくださる予定です。なお初子は、1923年に行われた日本で最初の「国際婦人デー」で司会を務めた人です。（折井美耶子）

2012 森の講座 I

あずまや高原山野草の集い

日時 6月3日（日）10時～15時  
会場 らいてうの家の庭とあずまや高原

参加費 2000円（予備）（上田駅からの送迎バスもあります）申込み切り 5月8日  
「紀要第5号」―6月発行予定

2008年に創刊した『紀要』は5年目を迎え、第5号になります。今号は奥村直史さんによる「平塚らいてう―孫が語る素顔」の続編、富本一枝の令孫、海藤隆吉さんからの寄稿、その他らいてうの貴重な肉声（対談）テープの活字化、「青鞥社事務日誌」の書き起こし、「青鞥」原本のサイズの不思議についてなど。お楽しみに。

【事務局日誌】

- 1月17～19日 小林登美枝さん資料の整理作業
- 1月23日 第4回常任理事会
- 1月27日 第4回理事会開催
- 1月28日 奥村直史さんを囲むつどい（於・渋谷 カフェミヤマ）
- 2月2～4日 小林登美枝さん資料の整理作業
- 2月18日 らいてう講座「戦争と女性たち」講師・梯久美子さん（東京ウイメンズプラザ）
- 2月23日 第58回日本母親大会第1回実行委員会  
に出席
- 3月12日 第5回常任理事会
- 3月15日 第5回理事会開催
- 3月22日 日本母親大会第2回実行委員会に出席
- 3月26～28日 小林登美枝さん資料の整理作業
- 3月30日 「平塚らいてうの会」と「家」の未来  
を考えるプロジェクト会議